

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画									
事項	記 入 欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	がっくおほしん ほくしょうがく								
フリガナ大学の名称	ほくしょうがくがくがくたいん								
大学本部の位置	北海道江別市文京台23番地								
大学の目的	北翔大学大学院は、教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の理論及び実践を重視した応用を教授研究し、その深奥を究め、もって文化の向上、社会の福祉及び地域の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における豊かな生涯スポーツ社会の発展に向けて、スポーツ科学・生涯スポーツ学に関する高度な専門的知識を修得し、課題設定能力、科学的分析能力、情報発信能力を備えた研究者及び高度職業人の養成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	生涯スポーツ学研究科 (Graduate School of Lifelong Sport)	年	人	年次人	人	博士（スポーツ科学）	令和3年4月 第1年次	北海道江別市文京台 23番地	
	生涯スポーツ学専攻 博士後期課程 (Doctoral Program in Lifelong Sport Sciences)	3	3	—	9	【Doctor of Philosophy in Sport Sciences】			
計			3	—	9			【基礎となる学部等】 生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科 健康福祉学科  生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 修士課程  14条特例の実施	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 博士後期課程	12 科目	4 科目	0 科目	16 科目	16 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	生涯スポーツ学研究科	7	1	4	0	12	0	1
		生涯スポーツ学専攻博士後期課程	(7)	(1)	(4)	(0)	(12)	(0)	(1)
		計	7	1	4	0	12	0	—
		(7)	(1)	(4)	(0)	(12)	(0)	(—)	
	既設分	人間福祉学研究科	6	1	0	0	7	0	11
		人間福祉学専攻修士課程	(6)	(1)	(0)	(0)	(7)	(0)	(11)
		人間福祉学研究科 臨床心理学専攻修士課程	4	3	1	0	8	1	10
		(4)	(3)	(1)	(0)	(8)	(1)	(10)	
生涯学習学研究科 生涯学習学専攻修士課程		10	3	0	0	13	0	19	
(10)	(3)	(0)	(0)	(13)	(0)	(19)			
生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻修士課程	9	2	1	0	12	0	11		
(9)	(2)	(1)	(0)	(12)	(0)	(11)			
計	29	9	2	0	40	1	—		
(29)	(9)	(2)	(0)	(40)	(1)	(—)			
合計	36	10	6	0	52	1	—		
(36)	(10)	(6)	(0)	(52)	(1)	(—)			

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	北翔大学・北翔大学短期大学部全体				
	事 務 職 員		70 人 (70)	13 人 (13)	83 人 (83)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)	0 (0)	4 (4)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		74 (74)	13 (13)	87 (87)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	北翔大学短期大学部(必要面積3,800㎡)と共用				
	校 舎 敷 地	2,375.00 ㎡	79,968.00 ㎡	0 ㎡	82,343.00 ㎡					
	運 動 場 用 地	0 ㎡	41,311.00 ㎡	0 ㎡	41,311.00 ㎡					
	小 計	2,375.00 ㎡	121,279.00 ㎡	0 ㎡	123,654.00 ㎡					
	そ の 他	0 ㎡	2,349.59 ㎡	0 ㎡	2,349.59 ㎡					
	合 計	2,375.00 ㎡	123,628.59 ㎡	0 ㎡	126,003.59 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	北翔大学短期大学部(必要面積4,087.50㎡)と共用				
		33,717.73 ㎡ (33,717.73 ㎡)	18,104.08 ㎡ (18,104.08 ㎡)	4,506.08 ㎡ (4,506.08 ㎡)	56,327.89 ㎡ (56,327.89 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	33 室	46 室	131 室	7 室 (補助職員 0 人)	3 室 (補助職員 0 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻博士後期課程		12 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分を含む		
	生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 博士後期課程	216,207 [18,352] (216,207 [18,352])	9,311 [5,277] (9,311 [5,277])	6,456 [5,026] (6,456 [5,026])	10,791 (10,791)	484 (484)	— (—)			
	計	216,207 [18,352] (216,207 [18,352])	9,311 [5,277] (9,311 [5,277])	6,456 [5,026] (6,456 [5,026])	10,791 (10,791)	484 (484)	— (—)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		2,319.33 ㎡	298		185,000					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		2,214.00 ㎡	陸上競技場1面、野球場1面、テニスコート5面、25Mプール							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	教員 1 人 当 り 研 究 費 等、共同研究費等は研究科単位での算出不能なため、学部との合計
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等		250 千 円	250 千 円	250 千 円	—	—	—	
		共 同 研 究 費 等		8,500 千 円	8,500 千 円	8,500 千 円	—	—	—	
		図 書 購 入 費	6,406 千 円	8,390 千 円	6,406 千 円	6,406 千 円	—	—	—	
	設 備 購 入 費	13,257 千 円	4,070 千 円	0 千 円	0 千 円	—	—	—	図書購入費には電子ジャーナル、データベース、その他の経費(運用コストを含む)を含む	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
820 千 円		620 千 円	620 千 円	— 千 円	— 千 円	— 千 円				
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等								

大学等の名称	北翔大学								所在地	平成26年度より 学生募集停止 平成26年度より 学生募集停止	
	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地			
既設 大学等 の 状 況	人間福祉学部 地域福祉学科	4	—	—	—	学士(介護福祉学)	—	平成9年度	北海道江別市 文京台23番地	平成26年度より 学生募集停止 平成26年度より 学生募集停止	
	福祉心理学科	4	—	—	—	学士(臨床心理学) 学士(保健福祉学)	—	平成13年度			
	生涯学習システム学部 芸術メディア学科	4	—	—	—	学士(生涯学習学)	—	平成12年度			
	学習コーチング学科	4	—	—	—	学士(生涯学習学)	—	平成18年度			
	生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科	4	160	3年次 10	660	学士(スポーツ 教育学)	1.11 1.30	平成21年度			
	健康福祉学科	4	60	3年次 5	250	学士(健康福祉学) 学士(介護福祉学)	0.60	平成26年度			
	教育文化学部 教育学科	4	120	3年次 10	500	学士(教育学)	0.98 1.15	平成26年度			
	芸術学科	4	50	3年次 5	210	学士(芸術学)	0.67	平成26年度			
	心理カウンセリング学科	4	50	3年次 5	210	学士(心理カウ ンセリング学)	0.90	平成26年度			
	人間福祉学研究科 人間福祉学専攻 (修士課程)	2	4	—	8	修士(人間福祉学)	0.31 0.25	平成13年度			
	臨床心理学専攻 (修士課程)	2	4	—	8	修士(臨床心理学)	0.37	平成15年度			
	生涯学習学研究科 生涯学習学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士(生涯学習学)	0.41	平成16年度			
	生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士(スポーツ 科学)	1.16	平成25年度			
	大学等の名称	北翔大学短期大学部									
大学等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地			
ライフデザイン学科	2	50	—	100	短期大学士(ライ フデザイン学)	0.43	平成15年度	北海道江別市 文京台23番地			
こども学科	2	140	—	280	短期大学士(こど も学)	0.76	平成17年度				
附属施設の概要	名 称：北方圏学術情報センター 目 的：北方圏における地域福祉・生活 文化の向上に関する研究 所 在 地：北海道札幌市中央区南1条西 22丁目1番1号 設置年月：平成13年4月 規 模 等：土地2,375.00、建物8,689.43㎡				名 称：北方圏生涯スポーツ研究センター 目 的：北方圏における人間科学・ 地域に関する研究 所 在 地：北海道江別市文京台23番地 設置年月：平成17年4月 規 模 等：土地82,343.00㎡(全体) 建物11,603.95㎡						

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻(D))														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通 科目	Sports Academic English	1前	2				○							兼1
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
専 門 科 目	スポーツ医科学特殊研究	1前		2		○			1					
	スポーツ生理学特殊研究	1前		2		○			1					
	スポーツバイオメカニクス特殊研究	1前		2		○			1					
	アスレティックリハビリテーション特殊研究	1前		2		○				1				
	スポーツ栄養学特殊研究	1前		2		○				1				
	スポーツ心理学特殊研究	1前		2		○				1				
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			3	0	3	0	0	0
	生涯スポーツ学特殊研究	1前		2		○			1					
	スポーツ老年学特殊研究	1前		2		○			1					
	休養・睡眠学特殊研究	1前		2		○			1					
	健康運動科学特殊研究	1前		2		○				1				
	アクアフィットネス特殊研究	1前		2		○				1				
冬季スポーツ指導特殊研究	1前		2		○			1						
小計 (6科目)	—	0	12	0	—			4	1	1	0	0	0	
研 究 指 導	特別研究指導Ⅰ	1通	4				○		7		1			
	特別研究指導Ⅱ	2通	4				○		7		1			
	特別研究指導Ⅲ	3通	4				○		7		1			
	小計 (3科目)	—	12	0	0	—			7	0	1	0	0	
合計 (16科目)		—	14	24	0	—			7	1	4	0	0	兼1
学位又は称号	博士 (スポーツ科学)			学位又は学科の分野			体育関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
必修科目4科目14単位、選択科目から1科目2単位以上、合計16単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。							1学年の学期区分				2学期			
							1学期の授業期間				15週			
							1時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻(D))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	Sports Academic English	英文読解と作文能力およびプレゼンテーション能力を養う。院生の研究テーマに関連する国際的な研究動向を調査できる能力を養う。また、国際学術会議等で自身の研究を英語で研究発表し、幅広い観点から意見交換できる能力を養う。研究論文執筆時には、英語で作文できる能力を身に付けさせる。	
専門科目 科学研究分野	スポーツ医科学特殊研究	寒冷地域における健康・スポーツ医科学関連の諸問題とこれらを解決するための方法について、生涯スポーツと関連づけながら系統的に講じていく。近年の健康・スポーツ医科学研究の発展はめざましく、その考え方や研究手法は大きく変化してきている。健康・スポーツ医科学の基礎知識を身につけるとともに、常に最新の研究報告を調べ把握しながら、一般的な問題から氷雪寒冷圏域に特有の問題に到るまで高度な科学的観点からアプローチし、解決していく。	
	スポーツ生理学特殊研究	酸素は細胞の活動に必要なエネルギーの生成になくなくてはならない。低酸素や高酸素のように環境の酸素濃度に対する生体の生理的反応から、運動中の酸素摂取量や最大酸素摂取量に至るまで、酸素に着目し、スポーツ生理学を論じる。博士候補生の興味に従い、先行研究を検討し、課題設定能力を養う。さらに、実験方法を習得し、解析方法を学び、課題解決能力を養う。	
	スポーツバイオメカニクス特殊研究	バイオメカニクスの計測・評価方法について学び、運動・スポーツ能力を運動力学的に理解する能力を養う。計測装置の原理やデータの処理方法、統計処理方法などについても学び、動作を定量的に捉え、客観的データに基づいて動作を解釈できる能力を向上させる。	
	アスレティックリハビリテーション特殊研究	スポーツ外傷・障害からの安全かつ効率的な競技復帰を科学的に検証・実践する。スポーツ外傷・障害の機能評価及びプログラムに関する最新の学術的知見をレビューし、国際的研究動向を探求する。また、先行研究の問題点・課題を明確にする過程で高度な課題設定能力を養い、スポーツ医科学の視点から解決する最新の研究手法・科学的分析能力を獲得する。	
	スポーツ栄養学特殊研究	近年、スポーツ栄養学分野の研究は、現象論にとどまらず、細胞レベルでのメカニズムの解明が求められている。本講義は、身体活動の増加に伴い生じる生化学的・生理的応答に対して栄養学の観点から最新のエビデンスに基づき、スポーツ栄養学の知見を深めると同時に、国内外におけるスポーツ栄養学分野の研究動向を理解する。スポーツ栄養学分野における新規性及び独自性が高い研究活動を探求し、人々の健康増進及びパフォーマンス向上の貢献に寄与する活動を遂行できる能力を修得する。また、パフォーマンス向上に欠かせない栄養サポート技術を実践的に考究する。	
	スポーツ心理学特殊研究	スポーツ心理学的観点からヒトの運動に関連する認知的機能、情緒的側面の理解を深めることを目的とする。動機づけ・運動制御・運動学習・熟達化・メンタルサポートについて、実際の日常および競技場面と関連づけて考察できる能力を養う。また、関連する国内外の研究から知識や技術の習得を目指し、スポーツ心理学の立場からの運動・スポーツに対する貢献について議論を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	生涯スポーツ学特殊研究	本講義では、生涯スポーツの諸現象に関して学際的研究の見地から考究するとともに、諸外国の政策、実践プログラム、研究動向を国際的比較研究から論じる。特に、地域的特性である氷雪寒冷圏域における生涯スポーツの基礎的理論と、その現状や課題について理解を深める。	
	スポーツ老年学特殊研究	生涯の最終段階となる高齢期における、スポーツの果たす役割や実践の方向性を探求する。授業では、文献抄読を中心に高齢社会の諸課題や心身機能の加齢変化について議論する。学際的な視点の育成や研究手法の理解を進め、スポーツを軸とした自らの研究課題を掘り下げる。	
	休養・睡眠学特殊研究	近年において睡眠研究は著しい発展や広がりを見せている。本授業ではスポーツ・運動との関係性をみた睡眠研究の成果に着目し、古典的な研究成果から最新の知見まで先行研究を丁寧に検討しながら、多角的に睡眠を捉える視点を養う。さらに睡眠データの収集方法や解析方法など、この分野で研究を進めるための手法を身につける。	
	健康運動科学特殊研究	最新の健康・医学関連の諸問題とこれらに対するアプローチ法・対処法について講ずる。近年、健康・スポーツ医科学研究が発展し、その考え方は大きく変化してきている。常に最新の知見に触れながら健康医科学の基礎知識を身につけるとともに、医科学の立場からアプローチする。また、知見を基に、新たな研究課題を探索し、仮説を立て、検証する。実験で得たデータを論文化すること、プレゼンテーションすることを求める。	
	アクアフィットネス特殊研究	本講義では、国際的研究動向を分析・把握した上で、応用健康科学的見地から、水の特性に基づいた氷雪寒冷圏域における健康運動の果たす役割について探求し、運動処方としてのあり方や新たな可能性について模索・考案できる研究能力を修得する。最新のアクアフィットネス指導技術やその効果の測定・評価技術を修得し、高度な研究遂行に必要な課題設定能力と科学的分析能力を養成する。	
	冬季スポーツ指導特殊研究	積雪寒冷圏域における冬季スポーツの指導方法についての認識を深める。特に、スキー、スノーボードなどの雪上スポーツを中心的対象とする。競技者、一般愛好家への効果的な指導方法や技術分析方法について取り扱う。それらの方法論を学ぶことにより、他の生涯スポーツ種目の指導方法の探求にも応用する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	特別研究指導 I	<p><b>【概要】</b>  博士論文作成を目標とし、研究に必要な知識と技術を修得する。ここでは、次の3つのプロセスを重点的に行う。  ①先行研究を熟読し、問題意識を明確にする。  ②研究テーマを設定し、研究計画を立案する。  ③研究計画を発表し、テーマに対する多角的な視点を取り入れる。</p> <p><b>【教員個別の指導内容】</b></p> <p>(1 川西 正志)  生涯スポーツ研究の国際的動向と課題を踏まえ、博士論文の核となる研究テーマに関する文献レビューをするとともに、そこでの研究課題、フレームワークの独自性について考究し、学会発表、主要研究論文の作成のための研究指導を実施する。</p> <p>(2 沖田 孝一)  健康・スポーツ医学の視点から、学術的価値が高い研究テーマに関する綿密な遂行計画を立てる指導を行う。</p> <p>(3 竹田 唯史)  冬季スポーツに関する国内外の研究動向を把握し課題を明確にする。対象とする冬季スポーツ種目、対象者、技能レベルなどの研究対象を定める。対象者が冬季スポーツの楽しさを享受できるよう、発育発達段階に応じた指導方法を確立するための指導理論を仮説的に構成する。指導過程を客観的に示した教授プログラムを作成し、実験授業により、指導理論・教授プログラムの検証を行う。</p> <p>(4 井出 幸二郎)  博士候補生自身が興味を明確化する。関連した研究論文を熟読し、不明点や問題点の抽出を行う。課題を設定し、研究計画を立てる。研究手法の習得とデータ処理方法を学ぶ。博士候補生自身のデータ取得の再現性を確保し、研究準備を行う。</p> <p>(5 小坂井 留美)  修士論文の成果を踏まえ、関連の論文を精読し、独自の研究課題を提起する。研究プロセスを理解し、適切なデータ収集・分析方法を探索する。研究計画を発表し、自分の考えを明確に述べ議論する力を養う。</p> <p>(7 小田 史郎)  睡眠・健康の観点から、先行研究を十分検討し、研究目的の絞り込みと研究仮説の設定を行う。併せて研究仮説を証明するための研究方法（対象者の選定、プロトコルの設定、データの収集及び解析、統計処理）を修得し、研究計画を立案する。立案した研究計画は、学内外の研究者による意見交換や学会参加、予備実験（予備調査）等を通じて修正する。</p> <p>(8 山本 敬三)  研究にあたっては、先行研究を十分検討・吟味し、テーマを設定する。研究目的を明確化し、実験方法やデータ処理方法等を修得する。スポーツ動作をバイオメカニクスの分析手法を用いて記述し、傷害予防やパフォーマンス向上の方策について力学的な観点からアプローチする。研究を通して、人間の動作をロジカルに捉える視点を養う。</p> <p>(11 高田 真吾)  研究にあたっては、問題意識に対する先行研究を十分検討・吟味し、テーマを設定する。研究目的を明確化し、実験方法やデータ解析方法を習得する。生化学的分析手法を用いて、疾病予防や効率的な運動療法の開発について生理学的な観点からアプローチする。研究を通して、人間・生命の営み・現象をロジカルに捉える視点を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	特別研究指導Ⅱ	<p><b>【概要】</b> 自身の研究テーマについて、調査・実験を行い、得られた知見を積極的に発表する。ここでは、次の3つのプロセスを重点的に行う。 ①研究計画に沿って調査・実験を行う。 ②得られたデータを整理し、考察を行う。 ③得られた知見を学術会議や学会誌等で発表する。</p> <p><b>【教員個別の指導内容】</b></p> <p>(1 川西 正志) 生涯スポーツ研究の国際的動向と課題を踏まえ、博士論文の核となる研究テーマに関する文献レビューをするとともに、そこでの研究方法論の妥当性と独自性について考究し、国際学会等での発表研究及び論文作成のための主要論文を作成するための指導を実施する。</p> <p>(2 沖田 孝一) 健康・スポーツ医学で用いられる実験・調査方法とデータの適切な統計学的解析を指導する。</p> <p>(3 竹田 唯史) 1年次で実施した実験授業の結果を分析し、国内外の学会で発表する。それらを主要論文として作成する。必要に応じて追実験を実施する。</p> <p>(4 井出 幸二郎) 計画に従って研究を進める。研究目的に照らして得られたデータをどのように処理すべきか、用いた方法からどのような解釈ができるかを学ぶ。国内外で学会発表し、プレゼンテーション能力、他の研究者とのコミュニケーション能力を養い、学会誌へ研究成果を発表する。</p> <p>(5 小坂井 留美) データ収集を進める。経年研究・共同利用に耐える綿密なデータ整理を行い、基礎的な統計解析から多要因を含む解析へ段階的に考察を進める。研究成果を国内外の学会・論文へ発表する。</p> <p>(7 小田 史郎) 研究計画に基づき、実験あるいは調査を進める。データ収集、分析、先行研究をふまえた考察を進めながら、ロジカルにデータを解釈する能力を養う。得られた研究成果は、積極的に国内・国際学会誌へ投稿する。こうした学術論文、学会発表を通じて研究成果をまとめる能力、他者に伝える能力を養う。</p> <p>(8 山本 敬三) 研究計画に基づいて、研究を進める。計測されたデータの処理方法や統計処理方法を学び、データを解釈する能力を養う。学術論文としてまとめる能力に加えて他者に対しても分かりやすくプレゼンテーションできる表現力を身につける。得られた研究成果を積極的に国内・国際学会誌へ投稿する。</p> <p>(11 高田 真吾) 研究計画に基づき、迅速に研究を進める。測定したデータをまとめる能力やデータを解釈する能力を養う。その成果を学術論文化やプレゼンテーションできる表現力を習得する。得られた研究成果を積極的に国内・国際学会誌へ投稿する。</p>	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	特別研究指導Ⅲ	<p><b>【概要】</b>  博士論文の執筆を行う。論文作成において、必要な追加調査・実験を行う。ここでは、次の3つのプロセスを重点的に行う。  ①得られた知見について、先行研究に照らし合わせて考察する。  ②得られた知見を学術会議や学会誌等で発表する。  ③博士論文を執筆する。</p> <p><b>【教員個別の指導内容】</b>  (1 川西 正志)  主要研究論文による博士論文の作成をするとともに、国際学会等での発表のための指導を実施する。</p> <p>(2 沖田 孝一)  研究成果を英語論文として執筆し、健康・スポーツ医学的における有数の学術雑誌への投稿・掲載に向けた指導を行う。</p> <p>(3 竹田 唯史)  これまでの研究成果を主要論文としてまとめ、学位論文の作成を行う。</p> <p>(4 井出 幸二郎)  得られた知見に従って新たに課題を設定し、研究を行う。得られたデータの統計処理、解釈を行い、研究を統括する役目を果たし、論文を完成させる。研究成果を、国内外で学会発表し、国内外の学会誌へ研究成果を発表する。博士論文の執筆を行う。</p> <p>(5 小坂井 留美)  分析結果の考察と議論を重ね、博士論文作成を進める。経年比較や対象の拡大など引き続きデータ収集・分析を行い、研究結果の精度を高める。研究成果を国際誌へ投稿する。</p> <p>(7 小田 史郎)  学会発表や学会誌への投稿を通じて、より専門的な視野で研究の完成度を高めていく。必要に応じて追加のデータ収集を行いながら、さらに考察を深める。これらを研究活動の集大成として博士論文にまとめる。</p> <p>(8 山本 敬三)  博士論文執筆に向けて、これまでに得られた知見やデータの整理を行う。多角的な視点から考察を行う上で、先行研究の調査を再度行う。研究成果については、国内・国際的な学術会議や学術誌で積極的に公開し、他機関の研究者と意見交換し、研究の完成度を上げる。</p> <p>(11 高田 真吾)  得られた知見を博士論文・学術論文の執筆に向けて、多角的な視点から考察し、先行研究の調査を再度行う。研究成果については、国内・国際的な学術会議や学会誌で積極的に発表し、他機関の研究者と意見交換し、研究の完成度をあげる。</p>	

## 学校法人北翔大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>北翔大学大学院</b>				<b>北翔大学大学院</b>				
人間福祉学研究科				人間福祉学研究科				
人間福祉学専攻(M)	4	—	8	人間福祉学専攻(M)	4	—	8	
臨床心理学専攻(M)	4	—	8	臨床心理学専攻(M)	4	—	8	
生涯学習学研究科				生涯学習学研究科				
生涯学習学専攻(M)	6	—	12	生涯学習学専攻(M)	6	—	12	
生涯スポーツ学研究科				生涯スポーツ学研究科				
生涯スポーツ学専攻(M)	6	—	12	生涯スポーツ学専攻(M)	6	—	12	
計	20	—	40	生涯スポーツ学専攻(D)	3	—	9	課程変更(認可申請)
				計	23	—	49	
<b>北翔大学</b>				<b>北翔大学</b>				
生涯スポーツ学部				生涯スポーツ学部				
3年次				3年次				
スポーツ教育学科	160	10	660	スポーツ教育学科	160	10	660	
3年次				3年次				
健康福祉学科	60	5	250	健康福祉学科	60	5	250	
教育文化学部				教育文化学部				
3年次				3年次				
教育学科	120	10	500	教育学科	120	10	500	
3年次				3年次				
芸術学科	50	5	210	芸術学科	50	5	210	
3年次				3年次				
心理カウンセリング学科	50	5	210	心理カウンセリング学科	50	5	210	
計	440	35	1,830	計	440	35	1,830	
<b>北翔大学短期大学部</b>				<b>北翔大学短期大学部</b>				
ライフデザイン学科	50	—	100	ライフデザイン学科	50	—	100	
こども学科	140	—	280	こども学科	140	—	280	
計	190	—	380	計	190	—	380	